

研修参加報告

（ 会派： 創 世 ）

<研修目的>

公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会が国内にファシリティマネジメントを普及啓蒙する為に1987年に国土交通省・経済産業省、両省で設立された協会。ファシリティマネジメント『FM』はアメリカで生まれた新しい経営管理手法です。FMとは地方自治体が市民の為に街づくりを形成する施設とその環境を総合的に企画・管理・活用する為の活動。コスト最小、効果最大で保有し、使用し、運営し、維持するための総合的な管理活動です。

安来市が一昨年から進めている公共施設等総合管理計画を進めるうえで、全国の事例・JFMAの最新事例を研修することにより、将来の街づくり・公共施設マネジメントの進める糧にしたいと思い研修に参加。

<研修概要一覧>

月 日	研修テーマ	会 場	内 容
2019年 2月21日 22日 23日	JFMA フォーラム2019 『第13回 日本 ファシリティマネ ジメント大会』	タワーホール船堀 1階～5階 各会場 講演・セミナー会場	21日●基調講演 ハーバート大学経営大学院教授 竹内 博隆 『知識創造理論と企業戦略』 ●公共施設のデータベース化とポイント 日本設計 加藤泰正・小坂 幹・伊藤一義 ●市民協働型「橋のセルフメンテナンス福島モデル」 日本大学工学部 浅野和香奈 ●特別講演 公的ストックの適正化について ー公共インフラ老朽化への対応ー 内閣府政策統括官 経済社会システム担当 参事官 福西 謙 ●病院 FM の未来を考えよう 埼玉石心会病院 平沼 昌弘 ●都市／地域の持続可能性と FM 戦略 ー観光開発によるまちづくりー NTT ファシリティーズ FM ウィスト 高藤 眞澄

			<p>22日 ● LCM 支援システムを活用した計画保全の実務 MLCM コンサルティング 川口 誠</p> <p>● 組織的かつ継続的な FM による保有施設の利活用の取組【特別賞】 青森県総務部行政経営管理課 駒井 裕民</p> <p>● FM 手法によりアセットを有効活用し、地域の活性化を目指す【特別賞】 ガイアート 道路維持戦略室長 幸野 茂</p> <p>● 復興まちづくりにおける庁舎づくりーまちの未来につながる FM【特別賞】 宮城県南三陸町総務課長 高橋 一清</p>
--	--	--	---

<研修概要報告>

1. 公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会主催
第13回ファシリティマネジメント大会

- 場 所 : 東京都江戸川区船堀 4-1-1
タワーホール船堀
- 概 要 : 今年度のテーマ : FM の未来
新たな価値を求めてー時代が変わる。
人・組織・社会を支える
ファシリティマネジメント

<考 察> 樋野 智之

第13回 JFMA フォーラムでの講演会場・各セミナー会場にて研修に参加しました。

この度の FM 研修の目的は、現在本市が進めている公共施設等総合管理計画に沿って施設の個別計画を策定しています。その進め方に私なりに危機感を持っているため、その整合性を確かめるのと、他の先進事例を学ぶためです。最終日研修後に3月議会での私の一般質問を FM 専門官に意見具申し確認することも上京の目的です。



① 内閣府政策統計官、社会基盤担当参事官の福西謙氏の講演では、我が国では高度成長期以降に整備した公共インフラが今後一斉に老朽化することが見込まれる。これら老朽化する公共インフラの計画的な維持管理・更新により、維持管理・更新に係るトータルコストの縮減・標準化等を図る必要がある。このため政府に於いて「インフラ長寿命化基本計画」を取り纏めるとともに、個別施設ごとの長寿命化計画（個別施設計画）の策定を行うなど、計画的な維持管理・更新に取り組んでいる。

2019/ 3/ 1

一方将来の維持・更新費用の増大が見込まれる中、経済財政諮問会議においては、歳出改革の取組の一つとして、公的ストックの適正化を進めることとしており、予防保全によるメンテナンスサイクルの確立を徹底し、ライフサイクルコストを低減させるとともに、集約化・複合化、新技術の開発、情報基盤の整備等をあらゆる面から戦略的な取組を徹底して推進することとした。などこれからの取組の具体的な内容について、取組が必要となった背景や、改革の必要性・行程を伺った。

② 7年前に地震と大津波で壊滅的な町・南三陸町が街づくりで蘇ってきた経緯など、今進めている事業について伺った。特別賞は本庁舎の再建プロジェクトを中心とした受賞であったが、公共プロジェクトの一つとして、まちづくりに繋がるシンボリック的存在が、従来の行政・議会機能に加えて「マチドマ」という町民活動・交流の拠点づくりが意図され、町の産業である森林・海産物の復興に力を加えている。適切な森林管理とその森林からの木材・木

2019/ 2/ 22

適切な森林管理とその森林からの木材・木

材製品を認証する「FSC 認証」を取得した町産材を多用することで、南三陸のショールームとしての位置付け化や、海産物・特にカキ養殖のブランド化での「ASC 認証」を取得した動きをされている。FSC・ASC 認証を一つの町で同時取得は世界初の事。人口 13,000 人、世帯数 4600 世帯、面積 164 k m²、人口密度 85 人/k m²、職員は 43 名で今でも全国からの派遣の職員が 10 墨との事でした・壊滅した街の現在市街地は夜間人口はゼロ。満足度の高い街づくりを造ろうとされている。

森一里一海一ひと、いのちめぐるまち 南三陸

- ③ 青森県の FM 担当マネージャー総括主幹・駒井裕民氏は 15 年前に県庁内で全国に先駆けてファシリティマネジメントを主管する部門を知事公認で立ち上げられ、以来同部門を引っ張ってこられた方です。私が現役時に常に接触していた人物でもあります。10 年前に第 2 回最優秀 FM 賞を受賞されています。その後も継続的に県有施設利活用に沿った FM 活動をされ、総量縮減では 8.4%の面積削減、11 件の移転・集約化が実施されている。売却は 195 件、36 億円の実績がある。また長寿命化改修工事に取組み、約 6 万 m²が改修済である。2108 年 12 月完了で県庁本庁舎長寿命化改修工事では、減築による耐震補強工事の軽減化、環境性能の向上など、FM 的視点による的確な施策が実行されている。島根県の公共施設マネジメントが全国的にも進んでいる理由は、導入時に青森県を視察され指導いただき、今日に至っている。本市としても十分参考にすべき先進の自治体でもある。

- ④ この度の研修では本市の様人口減少に苦しみ、多大な施設に対する将来の維持管理費の捻出を解消する為の施策を本市行革部門が担っているが、何処までトップの意向が明確にジャッジされての事か、または担当職員の不足からか、私としての公共施設マネジメントとはかなり乖離して



いると認識しています。特に将来人口予想に的確にあるべき施設群を配置した街づくりが現状の本市行革から見えない状況に対して、この度の研修参加で専門 FM 担当にヒヤリングやアドバイスを頂くことであった。3 月議会での私の一般質問の内容には自信が持てたと思う。

以上